



タマネギを収穫する参加者＝4日、新宮市熊野川町神丸

新宮市熊野川町の「ひまわり会」和歌山県福祉事業団生活介護事業所「地域活性化協議会（下）（仮称会長）は4日、同町神丸の畑で「タマネギ」から18人が参加し、大ぎく収穫体験」をした。社会福祉法人施設「エコ工房四季」NPO法人南紀

タマネギの収穫を体験

3事業所と農福連携

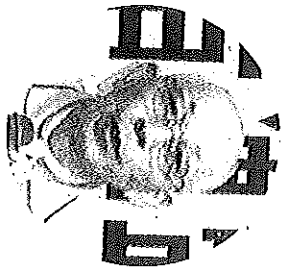
新宮市熊野川町

ひまわり会、和歌山県福祉事業団生活介護事業所「地域活性化協議会（下）（仮称会長）は4日、同町神丸の畑で「タマネギ」から18人が参加し、大ぎく収穫体験」をした。社会福祉法人施設「エコ工房四季」NPO法人南紀と農林水産省が厚生労働省と連携し推進する「農福連携」の一環で、市内では初めて実施。市、東牟婁振興局、1Aみくまの、市社会福祉協議会が協力した。昔は昨年10月末、11月初旬に1Aみくまのが広さ12坪の畑に約1万5000本を植えた。到着した参加者は同協議会メンバーや1A職員に教わりながら、はじめて収穫した。収穫したタマネギは各施設へと持ち帰った。体験を終えた南紀ひまわり作業所の日浦頼和主任は「体験する機会を頂き、感謝しています。利

新会長

身

那智勝浦町身体障害者連盟（鈴木悦子会長）の令和元年度総会が2日、同町福祉健康センターであった。堀順一郎町長、榎本直子福祉課長が来賓として出席した。参加者20人、委任状16人の計36人となり、総会が成立。昨年度事業、収支決算報告があり、本年度事業計画案などが承認された。役員改選では会長に坂下裕一さんが選ばれた。



坂下裕一さん

農地再生▽地域資源を活用▽地域体験学習などによる人材育成▽1ターンの推進▽里山景観保全活動▽遊休荒廃

太地町 東京農業

大地町 東京農業

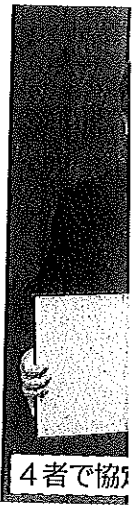
包括連携

大地町 太地町 大地水産共同組合

包摂連携

調印後、協定書を手にする

＝5月15日、東京



漁協・水産共同組合と共に協定

「ミクロの世界」をテーマに、熊野学研究会委員の榎本貴英氏が講師を

農業と福祉双方に利点

タマネギの収穫体験

新宮市熊野川町の三津野地域活性化協議会(下阪殖保会長)は4日、同町神丸の下阪会長の畑

で、福祉施設の利用者14人によるタマネギの収穫を実施した。農林水産省が推進する「農福連携」

事業の一環として行われ、新宮市では初の試み。障害者などの農業分野での活躍を通じて、自信

新宮市で初の試み



コンテナに盛られた大きなタマネギ

や生きがいを創出し、社会参画を促す取り組みであり、農林水産省では、厚生労働省と連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取り組みである農福連携を推進している。串本町の「エコ工房四季」、那智勝浦町宇久井の「南紀ひまわり作業所」、新宮市の和歌山県福祉事業団「生活介護事業えん」の3施設が参加。JAみくまのや、市社会福祉協議会・熊野川ステーション、東牟婁振興局の職員ら約20人が協力。約12アールの畑でタマネギを引き抜き、ネギと根を切り、コンテナに入れた。

下阪会長は「今まで、セミナーなど座学を通して知る農福連携は、大きな農家が作業をした利用者者に賃金を支払うというものだった。施設が畑を持つてもいいのではないか。それを私たち農家がお手伝いをする。今後は植え付け体験も予定し、利用者が責任を持って育て、収穫までを体験する取り組みを考えている」と意欲を示した。



タマネギを引き抜き収穫を楽しんだ